令和八年度　入学者選抜試験問題（現代の国語）

一　次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。なお設問の都合上表記を改めたところがあります。

私に親しいある老科学者がある日私に次のようなことを語って聞かせた。

「科学者になるには『あたま』がよくなくてはいけない。」これは普通世人の口にする一つの命題である。これはある意味では本当だと思われる。しかし、一方でまた「科学者はあたまが悪くなくてはいけない」という命題も、ある意味ではやはり本当である。そうしてこの後の方の命題は、それを①シテキし解説する人が比較的に少数である。

この一見相反する二つの命題は実は一つのものの互いに対立し共存する二つの半面を表現するものである。この見掛け上のパラドックスは、実は「あたま」という言葉の内容に関する定義の曖昧不鮮明から生れることはもちろんである。

論理の連鎖のただ一つの環をも取失わないように、また混乱の中に部分と全体との関係を見失わないようにするためには、正確でかつ②チミツな頭脳を要する。紛糾した可能性の岐路に立ったときに、取るべき道を誤らないためには前途を見透す内察と直観の力をもたなければならない。すなわちこの意味ではたしかに科学者は「あたま」がよくなくてはならないのである。

しかしまた、普通にいわゆる常識的に分かり切ったと思われることで、そうして、普通の意味でいわゆるあたまの悪い人にでも容易にわかったと思われるような尋常茶飯事の中に、何かしら不可解な疑点を認めそうしてその闡明に苦吟するということが、単なる科学教育者にはとにかく、科学的研究に従事する者には更に一層重要必須なことである。この点で科学者は、普通の頭の悪い人よりも、もっともっと物分かりの悪い呑込みの悪い田舎者であり朴念仁でなければならない。［1］

いわゆる頭のいい人は、云わば脚の早い旅人のようなものである。人より先に人のまだ行かない処へ行き着くことも出来る代りに、途中の道ばたあるいはちょっとした脇道にある肝心なものを見落す恐れがある。頭の悪い人、脚ののろい人がずっと後からおくれて来て訳もなくその大事な宝物を拾って行く場合がある。［2］

頭のいい人は見通しが利くだけに、あらゆる道筋の前途の難関が見渡される。少なくも自分でそういう気がする。そのためにややもすると前進する勇気を沮喪しやすい。頭の悪い人は前途に霧がかかっているためにかえって〈 1 〉である。そうして難関に出遭っても存外どうにかしてそれを切抜けて行く。どうにも抜けられない難関というのは極めてまれだからである。［3］

それで、研学の徒はあまり頭のいい先生にうっかり助言を乞うてはいけない。きっと前途に重畳する難関を一つ一つしらみつぶしに枚挙されて、そうして自分のせっかく楽しみにしている企図の絶望を宣告されるからである。委細構わず着手してみると存外シテキされた難関は楽に始末が付いて、シテキされなかった意外な難点に出逢うこともある。［4］

頭のよい人は、あまりに多く頭の力を①過信する恐れがある。その結果として、自然がわれわれに表示する現象が自分の頭で考えたことと一致しない場合に、「自然の方が間違っている」かのように考える恐れがある。まさかそれほどでなくても、そういったような傾向になる恐れがある。これでは自然科学は自然の科学でなくなる。一方でまた自分の思ったような結果が出たときに、それが実は思ったとは別の原因のために生じた③グウゼンの結果でありはしないかという可能性を吟味するという大事な仕事を忘れる恐れがある。［5］

頭の悪い人は、頭のいい人が考えて、はじめから駄目にきまっているような試みを、一生懸命につづけている。やっと、それが駄目と分かる頃には、しかし大抵何かしら駄目でない他のものの糸口を取り上げている。そうしてそれは、そのはじめから駄目な試みをあえてしなかった人には決して手に触れる機会のないような糸口である場合も少なくない。自然は書卓の前で手を束ねて空中に画を描いている人からは逃げ出して、自然の真中へ赤裸で飛び込んで来る人にのみその神秘の扉を開いて見せるからである。（中略）

頭のいい学者はまた、何か思い付いた仕事があった場合にでも、その仕事が結果の価値という点から見るとせっかく骨を折っても結局大した重要なものになりそうもないという見込をつけて着手しないで終る場合が多い。しかし頭の悪い学者はそんな見込が立たないために、人からは極めてつまらないと思われる事でも何でも、がむしゃらに仕事に取付いて脇目もふらずに進行して行く。そうしているうちに、初めには予期しなかったような重大な結果にぶつかる機会も決して少なくはない。この場合にも頭のいい人は人間の頭の力を買い被って天然の無際涯な奥行を忘却するのである。科学的研究の結果の価値はそれが現われるまでは大抵誰にも分からない。また、結果が出た時には誰も認めなかった価値が十年百年の後に初めて認められることも珍しくはない。

頭がよくて、そうして、自分を頭がいいと思い利口だと思う人は②先生にはなれても科学者にはなれない。人間の頭の力の限界を自覚して大自然の前に愚かな赤裸の自分を投げ出し、そうしてただ大自然の直接の教えにのみ④ケイチョウする覚悟があって、初めて科学者にはなれるのである。しかしそれだけでは科学者にはなれない事ももちろんである。やはり観察と分析と推理の正確周到を必要とするのは云うまでもないことである。

つまり、③頭が悪いと同時に頭がよくなくてはならないのである。

この事実に対する認識の不足が、科学の正常なる進歩を阻害する場合がしばしばある。これは科学にたずさわるほどの人々の⑤シンチョウな省察を要することと思われる。

寺田寅彦「科学者とあたま」

問一　次の文章が入る最も適切な箇所を問題文の［1］～［5］の中から選び、記号で答えなさい。

※頭のいい人は、云わば富士の裾野まで来て、そこから頂上を眺めただけで、それで富士の全体を呑込んで東京へ引返すという心配がある。富士はやはり登ってみなければ分からない。

問二　問題文の〈 1 〉に入る語句として最も適切なものを**ア**～**オ**から選び、記号で答えなさい。

ア　積極的　　イ　悲観的　　ウ　科学的　　エ　楽観的　　オ　常識的

問三　傍線部①の意味として最も適切なものを**ア**～**オ**から選び、記号で答えなさい。

ア　価値を認める　　イ　信じて敬う　　ウ　高く評価する　　エ　自慢に思う　　オ　信じすぎる

問四　傍線部②とは何を指すか、問題文から十字以内で抜き出して書きなさい。

問五　傍線部③はなぜか、八十字以内で説明しなさい。句読点等も一字に数えます。

問六　波線部①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

二

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。なお設問の都合上表記を改めたところがあります。

書をみるのはたのしい。画は見飽きることもあるが、書はいくら見ていてもあきない。またいくどくり返してみてもそのたびに新らしく感ずる。

出土品の骨や角に彫った原始形態のものもおもしろく、金石文も、六朝あたりの碑碣の拓本、唐宋の法帖の複製などもすばらしい。わけて肉筆ものを親しく見られる近代大陸や日本のものの興味は尽きない。

書は一種の抽象芸術でありながら、その背後にある肉体性がつよく、文字の持つ意味と、純粋造型の芸術性とが、複雑にからみ合って、不可分のようにも見え、また全然相関関係がないようにも見え、①不即不離の微妙な味を感じさせる。書を見れば誰でもその書かれた文字の意味を知ろうとするが、それと同時に意味などはどうでもよい書のアラベスクの美に心をひかれる。〈 1 〉そのアラベスクがただの機械的、図様的のものでなくて、それを書いた人間の肉体、ひいてはその精神の力なり、性質なり、高さ低さ清さ卑しさまでが明らかにこちらに伝播してくるのである。一の字をひとつ紙に書かせて、それによって占いをする人があるということをきいているが、なるほどこれも馴れたら或る程度までその人物の真相を見ぬくことが出来るかもしれない。

このように書の位置する場が一種特別な、而棲動物的な、不気味なものに見えるのは、書の実用性と芸術性との極度の密着から来るのであろうから、文字の意味の分らない異国人にとってはその芸術性の方だけが純粋に鑑賞出来るわけになる。われわれがイランの文字やチベットの文字を見れば、〈 2 〉それはすぐれた文様の一種としか見えない。外国の美術家がわれわれの書を見て、それからつよい抽象芸術的示唆をうけ、自分でも純粋空間的な、書でない書を書いて造型美を創り出すに至った事実はおもしろい。こういう純芸術的世界から見れば、書の意味は書の邪魔になるのであって、意味を解さない外国人の方に分があることになる。われわれは書の意味を忘れることが出来ない。天と書いてあれば、まずスカイとよむが、外国人ならただ四本の線の面白い組み合せ、書かれた線と空白との織り成す比例均衡の美だけを見るだろう。書の制限から解放せられて、自分でも自由自在な抽象美を創り出すことの出来る芸術境に進むことが無理なく行われるであろう。その点、②われわれにとっては相当の無理と抵抗とに悩むことになるであろう。

ところで、書の魅力は実は③意味と造型とのこんぐらかりにあり、書の深さはこのヌエのような性質の奥から出てくるので、書の東洋的深淵という秘境の醍醐味は、外国的抽象美には求められない。わたくしはまだ、一行の平安朝仮字書きの美に匹敵する外国人の抽象的線美を見たことがない。

高村光太郎「書の深淵」

問一 傍線部①の意味として最も適切なものを**ア**～**オ**から選び、記号で答えなさい。

ア つかずはなれず適度な距離を保つさま
イ どちらかにかたよらず公平な立場をとるさま
ウ 文字や言葉にたよらず直接伝えるさま
エ 同じでもなく異なるわけでもないさま
オ くじけず動じず負けないさま

問二 傍線部②はなぜか、三十字以内で説明しなさい。句読点等も一字に数えます。

問三 傍線部③とはどういうことか、問題文の語句を用いて四十字以内で説明しなさい。句読点等も一字に数えます。

問四 問題文の内容に合致するものを**ア**～**オ**の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 書の造形には、文字の意味が含まれないため、外国の芸術家たちにも影響を与えている。
イ 書の東洋的な深い魅力は、その文字のもつ意味を想像することでもたらされる。
ウ 画を見るのは楽しいが、書は文字の意味が分からないと見飽きてしまう。
エ 書は抽象芸術ではあるものの、文字のもつ意味から離れられない。
オ 書は肉体がもつ力強さや勢いの関与によってできあがるものではない。

問五 問題文の〈 1 〉〈 2 〉に入る適切な語句をそれぞれ次の**ア**～**オ**から選び、記号で答えなさい。

ア まるで　**イ** しかも　**ウ** むしろ　**エ** やはり　**オ** けれども

三

日本語の表現として不適切なものを**ア**～**コ**の中から五つ選び、記号で答えなさい。

ア 彼はいつも的を射た意見を言う。
イ 犬にえさをやりましょう。
ウ 私一人では手が負えません。
エ 先生は八時に駅に着かれます。
オ やっと汚名返上することができた。
カ 彼女に頼もうにもとりつく暇がなかった。
キ ご自身でお持ちいたしますか。
ク 課題があって、みんなと映画を観れなかった。
ケ 雨が降ってまいりました。
コ 部長には私では役不足です。

四

次の①～⑤の作品の作者名をそれぞれ**ア**～**ウ**の中から一つ選び、記号で答えなさい。

① 高瀬舟　**ア** 森鷗外　**イ** 川端康成　**ウ** 井伏鱒二
② 羅生門　**ア** 永井荷風　**イ** 芥川龍之介　**ウ** 安部公房
③ 暗夜行路　**ア** 志賀直哉　**イ** 小林多喜二　**ウ** 横光利一
④ にごりえ　**ア** 北村透谷　**イ** 樋口一葉　**ウ** 幸田文
⑤ 友情　**ア** 有島武郎　**イ** 武者小路実篤　**ウ** 梶井基次郎

五

次の**ア**～**ト**を組み合わせて四字熟語を五つ作りなさい。解答は（例）**アイ**のように、記号で語順どおりに答えなさい。

ア 獅子　**イ** 意気　**ウ** 不倶　**エ** 無人　**オ** 才気　**カ** 剛健　**キ** 不撓　**ク** 自適　**ケ** 旭日　**コ** 嘗胆
サ 虎視　**シ** 正大　**ス** 奮迅　**セ** 臥薪　**ソ** 繚乱　**タ** 昇天　**チ** 千秋　**ツ** 無実　**テ** 傍若　**ト** 百花